

ATに対応した「新しいガイド制度のあり方」論点整理（案）【再掲】

□ ATの価値の啓発（事業者自身含む官民挙げた周知）

- ATTAが提唱するATの5つの体験価値
 （ ① 今までにないユニークな体験 ② 自己変革 ③ 健康 ④ 挑戦 ⑤ ローインパクト ）
- テーマ「本物」 → 道内外（特に道内）に正しい認識を根付かせる仕組み必要

□ 北海道におけるツーリズムの新しいパターンの必要性

- 顧客を想定 ⇒

既存パターン	：	例）マスツーリズム（教育旅行等）
新たなパターン	：	ATに対応した作り込み

□ ATの担い手と求められる要件

ツアー オペレーター	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資格等の要否、方向性（ビジネス直結or取得奨励） ○ 北海道が財産として守りたいエリア→事業者認定の検討 （参考：知床五湖の登録引率者～エリア毎のプロの存在）
スルーガイド	<ul style="list-style-type: none"> ○ ATGSにおけるATに必要な知識 （ ① サステナビリティ ② 技術的スキルとファーストエイド ③ 安全とリスク管理 ④ カスタマーサービス及びグループ管理 ⑤ 自然・文化に係る歴史の解説（伝え方） ） ○ ISO基準への対応要 ～ 道アウトドアガイド資格はISOに近い水準
アクティビティ ガイド	

○ 「ATガイド」の制度設計が必要

スルーガイド ← ATガイド（理想形） ↔ アクティビティガイド

[アウトドアガイドとATガイドの棲み分け]
 道の現行ガイド資格 { を基に幅をもって検討するのか
 or
 に準じた新しい制度の検討か

- ・ ハイレベルなガイド等の一部がATに対応するイメージで良いか
- ・ GSTC（※）基準をどこまで入れるのか
- ・ ATWSを契機に、人材育成と並行して、海外マーケットへの販売支援に取り組む必要
- ・ 認定・格付けは、ニュージーランドのクォールマーク制度が参考になるのでは
- ・ メリットやインセンティブをどうするのか
- ・ 地元のものづくり企業との連携

□ 顧客ニーズに対応した領域（ヨコの広がり） ～ 持続的な形で北海道に根付かせる

- 未対応分野（シーカヤック、フィッシング、ハンティング、アウトドアのミーム（習慣・技術）等）
- 北海道の土地・歴史・文化に関する知識・解説
- 異文化体験等のソフトアドベンチャー（農業・縄文・アイヌの文化から居酒屋ホッピングまで）

□ 「品質保証」と目指すべき技術水準（タテの広がり）

- アクティビティの安全・安心の担保 → ガイドの評価・地位向上
- より高いレベルのガイドスキル、コミュニケーション能力（英語スキル等）
- 最低限必要なMIC、保険、ギアの整備 + 海外エージェントに保証する仕組み

□ 運営団体及び運営の方法（計画への位置づけ、条例改正の要否）

- 条例化を含め、知事認定制度の拡充を検討するのか
- 民間の任意団体が運営するなど、柔軟な制度を検討するのか

※ GSTC : Global Sustainable Tourism Council（世界持続可能観光協議会）

【第2回AT部会における各委員からの主な発言】

＜AT関係者の定義について＞

- アクティビティガイド、スルーガイドというところをどう整理していくか。また、売る側であるツアーオペレーターに対する認証についてどうしていくかを整理して議論していきたい。
- ATガイドとスルーガイドを一緒にしているところが良くない。スルーガイドの役割とATガイドの役割は違ってくる。
- 一人でアクティビティガイド、ATガイド、スルーガイドの資格を持ち、どれでもできるということはあるのだが、現場ではそれぞれの役割分担をしていく必要がある。
- ATGSの1番目のSustainability以外は、現行の北海道の制度でカバーしているため問題ない。制度として作るのであれば、必要最低限の北海道のアウトドアガイドとして知っておくべき北海道の知識とか、接客の仕方とか、安全とリスク管理、この部分をATスタンダードに合わせて作り、個別のアクティビティの技能を各業界団体の資格で補うという形で良いのではないか。
- 「スルーガイドのハイクオリティの方が、しっかりアドベンチャートラベルガイドとして認定されるためにはどういう要件が必要か」ということを議論していただきたい。
- ATGSを外れて我々独自で考えていくか、それに準拠した考え方にするかというところが、今後の方向性を決めていく話だと思うので、重要な議論。付与条件の話か、そもそも分けて考えるのかというのは議論のスタートとして重要。納得いくまで話した方がそのあともすっきり議論できると思う。

＜アウトドア事業者の収入確保・産業化について＞

- 20代、30代が非常に少ない。これで食べていける保証がないからでは。資格の内容自体は問題ではなく、産業として成り立っていない点が問題。
- ガイドの収入で800万円以上の方が2割いる。一定程度しっかり生業として稼いでいる方というのは、一体どんな稼ぎ方をして、どういう方でいうところを、顔が見える形で少し深堀が必要。